

優秀賞

SHU-TA ～手話で歌ってみ!?～

長岡 華菜子 (大学1年生：神奈川県)

健聴者で手話ができる人はとても少ない。しかし、耳が不自由で、手話を使う人がいることも事実。手話ができる人がもっと増えれば、聞こえない人を理解し支えることができる、より良い社会になると思う。そのためには、人々に手話に興味を持ってもらい、関心を高めることが必要だ。

そこで私が提案するのが、「SHU - TA～手話で歌ってみ!?～」だ。自分の好きな歌を選び、画面に出てきた歌詞に合わせて、手話をするというゲームである。耳が聞こえない人に「歌」を伝える手段として、歌詞を手話にする手話歌というものがある。今回の企画では、この手話歌をゲームにしてみた。ゲームの名前である「SHU - TA」は、手話歌の「手」と「歌」を縮めて、親しみやすいイメージで考えた。このゲームはゲームセンターに設置する。スマートフォンよりも大きい画面の方が遊びやすいし、ゲームセンターは多くの若者が利用する娯楽施設なので、若者に手話を知ってもらう機会を増やすことができるからだ。

歌詞を手話として表現できる文節に区切り、順番に画面に流す。同時に、手話表現の見本も画面に表示する。プレイヤーはその見本を見ながら、実際に手話をすることでゲームを楽しむことができる。カラオケの手話バージョンだ。

また、指・手・腕・顔と細やかな部分を認識するセンサーを用意する。それを使って、体の動きの正確さなどを判定してスコアを出したら、プレイヤーたちで競い合える充分楽しいゲームになる。手話のゲームという新鮮さは、すぐに若者たちのコミュニティに広がるだろう。もちろん、ゲームセンターを利用するのは若者だけでないので、若者以外の人にも手話に触れる機会を与えることができる。

この手話歌ゲームならば、健聴者も耳が不自由な人も楽しむことができる。ゲームセンターが健聴者と聞こえない人の交流の場になると、私は期待している。